

Narajoisic

Newsletter April 2025 vol.78



奈良女子大学に留学して

Messages from International Students

海外から交換留学にきていた学生が奈良女子大学で過ごした感想を寄せてくれました。

ルーヴェン大学（ベルギー） Meisher Amanda Geane

Studying in Japan has been an educational experience, significantly contributing to my academic growth. Being surrounded by a community of motivated international students has been very inspiring. In particular, being part of a group of students also majoring in Japanese Studies has driven me to improve my reading, writing, listening, and especially speaking skills. Additionally, attending NI-level classes has played a crucial role in honing my Japanese language proficiency.

Beyond language classes, my other courses at Nara Women's University have been important in my learning journey. In Modern Japanese Literature and Media, I learned about various Japanese authors and had the opportunity to visit Shiga Naoya's former residence. Similarly, in Contemporary Japanese Society, I participated in cultural experiences such as wearing a yukata with my classmates while doing the Bon Festival dance (盆踊り) in the summer.

The university has also provided many exciting opportunities for international exchange outside the classroom such as tea ceremony (茶道) and flower arrangement (生け花). Besides events, memorable excursions with my classmates to locations such as Ise Jingu in Mie Prefecture, Horyuji, Asuka, and Wakayama have deepened my interest and understanding of Japan's rich culture and history.

I have also made significant progress on my master thesis while in Japan. My thesis goes into depth about a specific genre of Japanese anime, namely "magical girl anime" (魔法少女アニメ). The usual plotline revolves around an ordinary girl who gains the ability to use magic in order to defeat an enemy threatening the earth. The main character, around middle school age, usually fights alongside her friends in a team, while balancing their responsibilities at home and school. This genre, although made with primarily a child audience in mind, also attracts viewers of all ages, genders and nationalities. These types of shows have been an instrumental part of many women's childhoods in Japan, which is why they continue to remain beloved by countless fans.

In my thesis, my goal is to focus on the famous Pretty'Cure (プリキュア) series, an ongoing magical girl series produced by Toei Animation. I plan to further explore the impact that this series has had on the genre throughout the past two decades. I specifically have chosen to focus on the "Adult Pretty Cure" series, which revolves around the characters' lives as adults. How do magical girls, often viewed as either ideal or empowering representations of girls, grow into adulthood? For exam-



ple, do they conform or rebel against traditional gender roles? My thesis explores the changing depiction of women in the magical girl genre of anime.

During my time in Japan, I have visited various hubs of Japanese popular culture, which is the main topic of my research. Cities such as Osaka, Nagoya, and Tokyo have provided unique insights, offering access to nostalgic anime cafes and pop-up shops that were previously unavailable to me in my home country. It has been fascinating to see how many adults participate in fan culture.

Having access to sources has also been invaluable for my research and thesis. I have been able to utilize a wide range of books and articles, particularly those written in Japanese, which would have been difficult to obtain otherwise. I am grateful to my academic supervisor for introducing me to these useful materials.

In addition to research materials, speaking with individuals from diverse backgrounds has helped me improve my research methodology. Conducting practice interviews with students has allowed me to develop skills in formulating effective research questions and gathering meaningful data. I plan to continue refining my methodology to produce an interesting final result.

Attending Nara Women's University this past year has been an honor. This exchange year has been truly impactful in my academic career.

梨花女子大学（韓国） Lee Hyouji (イ・ヒョジ)

奈良女子大学では韓国では経験できなかった様々な体験と授業を受講しました。その中で私に印象深く感じられた活動は主に日本の伝統文化を経験できる体験や韓国ではない他の国の留学生を通じて他の国の文化を経験した体験です。

2回も経験した茶道体験は日本の伝説を感ずるのに十分でした。韓国ではお茶を飲む文化がほとんどないので、茶道の文化について深く考えたことはありませんでした。しかし、日本は茶道文化がとても発達していて、様々なお茶を活用して茶道の時間を持つことができるので、茶道を理論的に学んだ後、直接体験してみる時間が有益でした。日本風をよく感じられる空間でお茶の作り方、飲む過程、そして一緒に食べるお菓子まで体験したことは日本の文化にもつと深くはまるのに十分な体験でした。

また、印象深く感じられた体験は、ベトナムの留学生から主催された「バインセオ作り」体験でした。韓国で平凡な大学生活を送る時は留学生と交流することが珍しく、他の国の人も接触することがありませんでした。日本に留学に来た時も日本人との交流だけがあると思いましたが、日本以外の国の文化まで学ぶことができる機会が与えられました。韓国と地理的に、文化的にも近い日本以外の国の文化は少しも分からなかったが、ベトナムの代表料理である「バインセオ作り」体験は私に他の国の文化を知らせてくれただけでなく日本以外の国に対してももっと知りたいという興味を持たせてくれました。日本、韓国、中国など様々な国の学生たちが集まってバインセオを作った時間は私にとってとても幸せな思い出に残りました。初めて体験する食べ物に対するときめきと同時に、バインセオを直接作って食べる体験はとても興味深く感じました。

奈良女子大学の留学生じゃなかったら経験できない特別な体験ができたので奈良女子大学で充実した時間を過ごしたと思います。特定のプログラムではなくてもチューターとの対話、学校食堂での食事、カフェでパフェを買って食べるなど些細なことですが、韓国とは全く違う日常を経験することができたので、奈良女子大学での留学経験は私に忘れられない思い出として残るでしょう。



この国の、この大学で、こんな勉強がしたい！

具体的にイメージできてきたけど…これで悩んでいます…

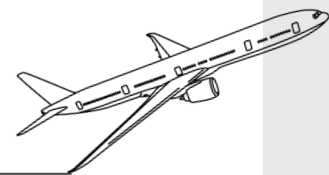
留学相談フォームよりご相談ください。



交換留学にいきました。

帰国後レポート

Exchange Program
Reports



人間文化総合科学研究科 住環境学専攻 博士前期課程1年 吉村陽彩
チェンマイ大学（タイ） 留学期間：2024/6/17～10/29

〈チェンマイ大学を選んだ理由〉

私は将来、海外駐在員として英語を使用しながら仕事をしたいと考えており、留学では建築と英語の知識を得ることを目的としていました。もともと留学生の友人が多く、アルバイトでも英語を使用していたため、語学留学ではなく、専攻分野を深く学べる留学を希望していました。奈良女子大学の提携校の中から建築学部のある大学を探す過程で、チェンマイ大学に出会いました。チェンマイ大学を選んだ決め手は、住環境学科のカリキュラムにはない建築構造やデジタルデザインの授業が提供されていたこと、そしてタイには多くの日本企業が進出しており、駐在員としての生活を具体的にイメージできる環境が整っていたことです。これらの魅力を感じ、チェンマイ大学を留学先として選びました。



〈留学で学んだこと〉

学習面では、授業、修士研究、ワークショップに取り組みました。授業では、渡航前に期待していたデジタルデザインスキルの向上や専門分野の英語習得に加え、日本の建築が海外でどのように評価され、教えられているのかについても知ることができました。特に、日本の建築やまちづくりが先進事例として紹介されている場面があり、学部時代に学んだ内容を新たな視点から考える貴重な機会となりました。



学部生対象の授業を履修したため、奈良女子大学大学院での単位互換はできませんでしたが、多学年の授業に参加することで多くの友人を作ることができました。これにより、学習面だけでなく私生活も充実し、非常に有意義な時間を過ごすことができました。

授業と並行して、修士研究にも励みました。海外にいる貴重な半年間を活用して現地でしか行えない研究を進めたいと考え、タイの伝統家屋を取り入れた現代住宅に関する調査を実施しました。具体的には、タイの学生を対象としたアンケート調査を行いました。この研究は、6年一貫教育プログラムの一環である「特別研究(長期海外)」として単位認定を目指して取り組みました。現地では、伝統家屋の訪問やタイ人へのプレヒアリングを行い、渡航前に立てた研究計画を現地の感覚に基づいて調整しました。さらに、日本のゼミにオンラインで参加し、教授からアドバイスをいただきながら研究を進めました。帰国前にはチェンマイ大学の建築学生を対象にタイ語でアンケート調査を実施し、現在はその結果を分析しています。

また、留学中に得た学びの場として、建築ワークショップがあります。チェンマイ大学は他大学との交流が盛んで、世界各国から学生が集まるワークショップが充実していました。あるワークショップでは、台湾、中国、日本、タイの建築学生が集まり、1週間にわたるフィールドワークや建築見学を通じて得た気づきを基にグループで建築提案を行いました。英語での議論やプレゼンテーションを経験したことで、将来の仕事にも活かせるコミュニケーション力とアウトプット力を養うことができました。

以上のように、半年という短い期間の中で、多くの学びの機会に恵まれ、目的としていた建築と英語のスキルだけではなく、交友関係の広がりや豊かな視野を獲得しました。今後は、これらの経験を活かし、英語を使用した建築の仕事で活躍するという将来の目標を実現するため、努力を重ねてまいります。

最後に、貴重な学びの機会をくださり、快く送り出してくださった奈良女子大学の先生方、職員の皆様、そして家族の皆様にご心より感謝申し上げます。



文学部 言語文化学科 3年 英保明依
レスター大学（イギリス） 留学期間：2024/9～2025/1

〈交換留学への応募理由〉

入学当初より、どんな形でもいいから留学をしてみたいという思いがあったことに加え、大学1、2年生の時期に国際情勢が不安定になり、国際秩序について詳しく知りたいたいと思い始めたことがきっかけです。レスター大学へ交換留学すれば、留学の夢も、多様な学生が集まる環境で国際関係を学ぶ機会も得られるため、「これだ!」と思い、応募させて頂きました。奈良女子大学での専門は政治学でも社会学でもなかったため、正直、無理を承知での応募だったのですが、熱意を認めて頂けたのか、無事派遣生として留学出来ることになりました。

〈レスターでの1日〉

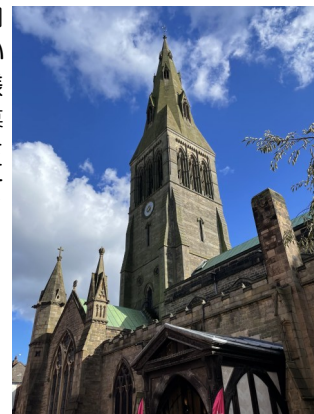
寮で3人のフラットメイトと暮らしていました。フラットメイトとどこかへ出かけることなどはありませんでしたが、毎日キッチンで会話をし、日々の生活を共にしてきた大切な友人となりました。寮から歩いて20分ほどの場所にキャンパスがあり、早い日は朝10時から授業を受けていました。授業には講義（lecture）と議論（tutorial）の2種類があり、各授業（1 semesterに4授業を受けることが推奨されます）が週に3時間ありました。時間は60分と短いですが、特にtutorialの授業では、内容を理解し、発言することに必死で、初期の頃は、授業後にどっと疲れが溜まっていたのを覚えています。放課後は、留学生向けの無料の英語クラス（またはアカデミックスキルのクラス）、スポーツのクラス（ヨガやジムに行っていました!）、society活動、清掃のボランティアに参加し、新しい友人を作り、リフレッシュするよう心がけていました。また、留学中、心の支えになっていたのは、留学生仲間との存在でした。彼女らのバックグラウンドは、イタリア、カナダ、アメリカ、インドネシア、マレーシアなど様々でしたが、一緒に出かけたり、同じ留学生として悩みを相談しあったりしていました。思い通りにならない時期も乗り越えられたのは、彼女達の存在があったからと言っても過言ではないと感じています。

〈留学を振り返って～留学前後での心境の変化～〉



大学にいるリス

バイタリティがあまりなかった私ですが、留学以前と比べ、自信やアクティブさが身についた気がします。また、イギリスに対して持っていたバイアスにも変化がありました。以前はイギリスと聞くと「ご飯が美味しくない」や「皮肉っぽい人が多い」などマイナスイメージを持っていたことも事実なのですが、実際は、優しく暖かい方が多く、特にレスターは、多様な人種の方が集まるオープンな街でした。また、ご飯に関しても、同じ味に飽きることはありませんでしたが、不味いと思ったことはありませんでした。それ以上にイギリスと日本の文化の違いを感じられて面白かったです。政治学の授業でも、日本や世界を客観視することができ、日本の現状や政治体制に対する見方も大きく変わりました。多様なバックグラウンドを持つ同年代の学生と議論したり談笑したりできた経験は、私にとって宝物となりました。これからは、留学で学んできたことを活かし、広く、多様な視野で物事を考えられる人間になりたいです。



レスター大聖堂



Oxfordのハリポッターロケ地にて

人間文化総合科学研究科 化学生物環境学専攻 博士前期課程2年 加部夕海沙
フィリピン大学ディリマン校（フィリピン） 留学期間：2024/9～2025/1

〈フィリピン大学ディリマン校を選んだ理由〉

フィリピン大学でなら研究活動と英語力を磨くことができると考えたためです。また、なるべく奨学金の範囲内で交換留学をしたいという思いもあり生活コストが欧米に比べると安く、英語が使える環境も魅力的でした。フィリピンでトップクラスの教育を誇る大学として有名であり、在籍している学生はとても優秀な方が多いです。その環境の中で自分の研究や専攻について学んでみたいと考えたことが決め手になりました。

〈フィリピンでの生活〉

フィリピンでは一年を通して非常に暖かいです。台風の時期などを除き快晴の日も多く、国民性も陽気で明るい人が多いイメージでした。留学では数学の授業を履修し、それに加えて現地のジャーナルクラブに参加し研究発表を行いました。授業に関しては一つの授業につき1週間に3時間の授業が行われます。各授業で出される課題は非常に多く、また言語の壁もあり授業についていくには予習と復習もしっかり行わなくてはなりません。試験や課題で出される内容は授業で触れていないものも多く自分で





調べて答えを導き出さなくてはいけない部分が奈良女での授業とは違い大変ではありましたが非常に自分の力になりました。授業外では友人と屋台やモールで食事をしたり、大学構内をランニングしたりしていました。現地の学生だけでなく、他国から来ている留学生とも友人になることができます。留学生は日本人が一番多いですが、そのほかに中国、アメリカ、オーストラリア、フランスなどからも来ていました。また大学構内は非常に自然豊かで広大であり、地元の人は公園として利用している人も多くいました。特にランニングをしている人が多く、私も息抜きとして現地の人に倣って大学構内を走っていました。

〈留学を終えて〉

留学全体を通して上手くいった時もあれば、そうでない時もありました。自分の思ったようにいかなかった時にできる事はなんでも挑戦してみる力がついたと思います。日本と比べると不便なところもあります。インフラが弱かったり、日本のようにシステムが簡素化されていなかったりと自分の意図しないところで躓いてしまう事も多くありました。そういった時に自分から現地の先生や学生に積極的に関わっていき新しい機会を得ることで解決していききました。この留学で培った力と英語力を社会人生活でも活かし、仕事においても国際的に活躍していきたいと思っています。



海外での活動報告



アゼルバイジャンで開催されたCOP29に参加した和田優希さんに活動報告をいただきました。

理学部 化学生物環境学科 環境科学コース 4回生 和田 優希

私が所属するClimate Youth Japan（略称：CYJ）は「ユースが気候変動問題の解決と世代間衡平の達成を目指すことで持続可能な社会を実現する」というビジョンを掲げ、約50名のメンバーで日々活動しています。政策提言や意見交換会への参加、イベントでの登壇・出展、定期的な勉強会によるキャパシティビルディングなどを行っています。また、COP（国連気候変動枠組条約締約国会議）へ毎年メンバーを派遣するなど、活動は国内に留まりません。

私は、小学5年生の時に海外で大気汚染を体感したことがきっかけで環境問題に興味を持ち始めました。中学、高校では環境問題の解決に貢献できるような材料開発の研究を行なっていましたが、目の前に迫る気候危機に対して、政策や行政などもっと大きなフレームワークで変えていかないと、せっかくの技術も効果的な利用や推進がされないし、このままだと気候変動のティッピングポイントに間に合わないのではないかと感じて大学1年生の時にCYJへ入りました。環境問題や気候変動問題に取り組む団体はいくつかあって迷いましたが、具体的に仕組みを変えるような取り組みがしたかったため、政策提言をメインの活動として行なっているCYJを選びました。現在は政策提言部門の統括をつとめ、地球温暖化対策計画やエネルギー基本計画の策定に関して提言書を出したり、省庁との意見交換会に出席したりしています。

2024年度にはアゼルバイジャンで開催されたCOP29に参加しました。現地では交渉の動向を追うだけでなく、パビリオンで登壇を行ったり、他国の現状調査などを行いました。登壇は「日米韓の協力」がテーマだったので、各国の強み（日本の防災技術や気象予報システム、アメリカの衛星観測データ、韓国の情報管理システムなど）をどのように連携させてアジア太平洋地域全体に展開していくか、というトピックでアイデアを発表しました。アメリカと韓国のユースからもプレゼンがあり、政治的に不安定なことも多い今だからこそ、非政府アクター同士の協力は非常に重要だということを感じました。

私は将来、気候変動問題のことをより多くの人に伝えたいという気持ちで気象キャスターになることを志し、気象予報士の資格を取りました。そのこともあって、COPでは他国の人に「気象予報」のことを聞いてまわりました。最初は「テレビの気象予報の時間に気候変動問題がどれくらい扱われているか」を知ることが目的でしたが、発展途上国を中心とした多くの国の人々が「気候変動問題を扱うどころか、気象予報自体の精度が低くて当てにならないから日本の精度の高さが羨ましい」という回答でした。日本で過ごしていると気づけなかった情報にかなりハッとさせられ、将来のビジョンを見直すきっかけになりました。

前述の経験を経て、他国の防災・減災にも携わりたいという気持ちが強まりました。気候変動の進行を緩和させるための活動だけでなく、気候変動によって激甚化する異常気象などによって危険な目に遭う人を少しでも減らせるように、これからも勉強や活動に励みたいと考えています。



春休み海外研修

春休み期間中、国際戦略センターでは渡航型・オンライン型の海外研修を実施し、たくさんの学生が研修に参加しました。

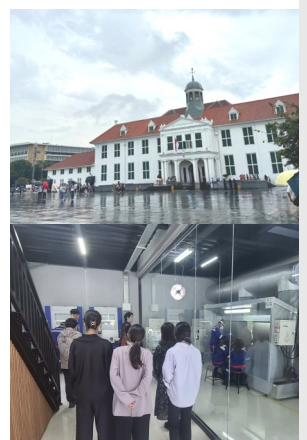
- キャリアデザイン・ゼミナルB (48) グローバル女性人材養成プログラム ニュージーランド研修 (2/15-3/10)
- NaraISC カンボジアスタディツアー (2/12-2/22)
- NaraISC ヨーロッパ研修 (2日程 3/1-3/9・3/11-3/19)
- NaraISC ハワイ研修 (3/4-3/27)
- NaraISC 韓国スタディツアー (3/11-3/14)
- NaraISC 台湾清華大学との交流 (3/15-3/20)
- NaraISC 海外オンライン研修セブ島 (2日程 2/24-2/28・3/10-3/14)

センター主催以外でも、各学部で海外研修が実施されています。
今回は生活環境学部インドネシアジャカルタ研修の参加学生より感想をいただきました。

- 生活環境学部 インドネシア ジャカルタ研修 (2/19-2/23)

◆普通ではなかなかいけないところに行くことができ、貴重なお話を聞くことができよかった。就職前の良い刺激となった。◆研修にて、様々な組織や団体を訪問出来て、とても有意義な時間を過ごせたと思います。

◆研修を通して、大学の講義だけでは得ることのできない学びがたくさんありました。現地ですさまざまな立場の方々からお話を聞くことで、日本という国を違う視点から見る機会になりました。さらに、インドネシアという国は、日本に比べて、若い人の割合が高いなどの社会的な面や、イスラム教を信じる人が多かったりといった文化的な面においても、日本とは大きく異なる国です。このように、異なるからこそ、そのような側面をもつ社会はどのように成り立ち、動いているのかということなど、学ぶべきことがたくさんありました。この経験から、座学などでその知識を得るだけでなく、実際に自分の目で見て考えるということはとても重要だと感じました。



International Exchange
in Campus Life!!

国際戦略センターが リニューアルしました!

4/24 (木) 11:00~16:00
(随時、自由に見学してください)

お披露目会します!

ご来場の方に、
オリジナルグッズ
をプレゼント!

国際戦略センター (N103) がリニューアル!
留学生も日本字学生もみんなで集えるように、コミュニケーションエリアを整えました!自由に入出入りしていただけます。飲食OK。
(ゴミは持って帰ってね) 留学情報の収集や、日本語の勉強、本を読んだり、DVD見たり、ゲームしたり、おしゃべりしたりと気軽にご利用ください。奥にスタッフルームがありますので、何かあればお声がけください。

お披露目会します!

4/24 (木)

11:00~16:00

(随時、自由に見学してください)

ご来場の方に、
オリジナルグッズ
をプレゼント!

International Exchange
in Campus Life!!

気軽に集って国際交流!

留学生も奈良女子大学生も気軽に集えるオープンスペースです。留学ガイド、漫画にDVDもあるし、留学や国際交流情報もたくさん!ここに集って世界に知り合いの輪を広げよう!

2025
国際戦略センター

RENEWAL OPEN

国際戦略センター (N103) がより利用しやすくなりました!



国際戦略センター (奈良女子大学)

奈良国立大学機構 Nara Isc 国際戦略センター 奈良女子大学部会

NEWSLETTER Vol.78 2025年4月発行

〒630-8506 奈良市北魚屋東町 TEL: 0742-20-3736 Email: iec@cc.nara-wu.ac.jp